

(別紙2)

令和4年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和5年3月1日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：宮古島

協定対象漁業集落名：宮古島漁業集落

協定参加世帯数：84世帯（84人）

（うち漁業世帯数：58世帯（59人））

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、宮古島集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

漁獲物を引き上げる前にサメに全部または一部を食べられるなどの被害があるため、漁場の管理・改善によりサメ駆除を実施し漁業被害の軽減を図ることとした。

・漁場の管理・改善（サメ駆除）



一本釣りによるサメ駆除



駆除したサメ

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

○新たな漁具・漁法の導入

キンメダイ試験操業を行い、宮古島近海にもキンメダイが生息しているのが確認できた。ピンクの釣り機の講習会、現地視察により宮古島の今後の漁獲向上の兆しがみえた。

新規養殖業への着業

牡蠣の養殖を行っている徳島のリブルに伺い意見交換を行い、宮古島での養殖も可能性があると感じた。

○高付加価値化

久米島・北中城の漁協に伺い宮古島のアーサとの生産数、品質の違いについて意見交換を行い、今後の宮古島のアーサの生産拡大、品質向上に向けた課題が見えた。沖縄県内でも大規模なモズク生産を行っている勝連漁協に伺い意見交換を行い、今後宮古島のモズクの価格向上、品質向上に繋がる意見を頂いた。競りの際に今まで大型の魚は直置きしていたがスノコを導入することにより、直置きを防止できるので衛生面の強化に繋がった。

○流通体制改善

流通体制改善では前年制作した生け簀にエアブローを導入し、活魚の畜養期間が伸びた、マグロの出荷先に視察し宮古島のマグロの評価、その他の魚の取引拡大するための話し合いが出た、地元のんまむぬ杯にマグロを提供し地元の調理師たちがアレンジ料理を作り販売したので今後の消費拡大に繋がると考えられる。

○その他（体験漁業）

アーサ収穫体験を地元の学生を呼び3年ぶりに行った、アーサ生産者以外の方が収穫体験ができる珍しい機会なので参加者はみな喜んでいました。

○その他（魚食普及）

アーサ・ゲソミンチ即売会 3年ぶりに即売会を行い、今回はGAS認定を受けた生アーサと新商品のゲソのミンチを販売した、開始20分で完売し購入者たちからも次も行って欲しいとの要望があった。

○その他（養殖の課題解決に向けた取り組み）

モズクの陸上芽出しの試験を行い、今後陸上でも芽出しが確立、安定すれば宮古島のモズク生産拡大、安定に繋がると感じた。

・新たな漁具・漁法の導入（キンメダイ試験操業）



キンメダイ仕掛け（製作）



キンメダイ試験操業

・新たな漁具・漁法の導入（ピンクの釣り機講習会）



ピンクの釣り講習会

・新たな漁具・漁法の導入（ピンクの釣り久米島視察）



久米島視察（現地説明）

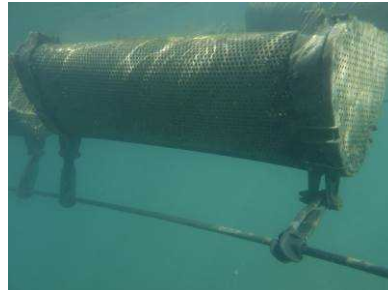
・新規養殖業への着業（牡蠣視察）



現地意見交換



現地説明講習



養殖現状

・高付加価値化（アーサ視察）



久米島視察



北中城視察

高付加価値化（モズク視察）



現地意見交換



加工場視察

高付加価値化（セリスノコ）



スノコ（セリ場）使用

・流通体制改善（活魚水槽活用）



活魚水槽 エアーブローワー設置

・流通体制改善（んまむぬ杯）



調理士会による作業

・流通体制改善（マグロ視察）



競り風景（京都）



競り風景（神戸）

その他（体験漁業 アーサ収穫体験）



アーサ収穫体験・試食

その他（魚食普及 アーサー・ゲソミンチ即売会）



即売会チラシ



即売会風景

その他（養殖の課題解決に向けた取り組み モズク陸上芽出し試験）

4. 取組の成果

交付金交付対象漁業者所得平均 1,852 千円

漁業集落漁業就業者数 58 名

漁場の管理・改善の取組でサメ駆除を実施することにより 6 匹のサメを駆除することができ、漁獲物の漁業被害の軽減及び安全操業を図ることができた。

新たな漁具・漁法の導入では宮古島近海にキンメダイの生息が確認できた、ピンクの釣り機の講習会、久米島視察を行い今後の 1 本釣りの新たな発展の兆しが見えた。新規養殖への着業では徳島県のリブルに伺い宮古島でも牡蠣養殖の可能性があり新たな養殖業への拡大に繋がると感じた。高付加価値化ではア-サ視察（久米島、北中城）に伺い宮古島では行っていない品質管理などが分かり今後の展開に繋がると感じた。モズク視察では勝連漁協に伺い、宮古島よりも加工場等の整備が行われており、生産部会の違いもあり今後の宮古島漁協も取り入れていき生産向上、品質安定に繋がる意見をいただいた。競り場にスノコを導入し、食品としての衛生面の強化に繋がった。流通体制改善生け簀にエアブローを導入し畜養の期間を延ばし高単価での出荷に繋がった、マグロ視察（京都・大阪・神戸・福岡）を行い宮古島のマグロの鮮度の良さを確認出来、発送の際の課題はあるが今後の単価向上が見込める意見交換が出来た。んまむぬ杯で地元の調理師会の方々にマグロ調理してもらい今まで使えなと考えていた焼けマグロの調理法を確率してくれ今後の宮古島内での消費拡大に繋がると感じた。その他（体験漁業 ア-サ収穫体験）を通し地元の子供たちに貴重な体験をさせ、ア-サの魅力を伝えることが出来た。その他（魚食普及 ア-サ・ゲソミンチ即売会）を行い新商品のゲソミンチ、ア-サの周知が出来消費拡大に繋がると感じた。その他（養殖の課題解決に向けた取り組み モズク陸上芽出し試験）をお行い今後の宮古島のモズク養殖の安定に繋がると感じた。